

2024 年度第 2 回地域会議 議事概要

2025 年 2 月 17 日（月）、青森市内において地域会議を開催しました。

当会議は、日本原燃㈱が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、弊社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員】

議長	佐藤 敬	様	青森中央学院大学	学長
	芦野 英子	様	エッセイスト	
	菊池 としえ	様	青森県むつ小川原開発審議会委員	
	北村 真夕美	様	㈱青森経営研究所	代表取締役社長
	武輪 俊彦	様	武輪水産㈱	代表取締役社長

【議事次第】

1. 社長挨拶
2. 資料説明
資料「原子燃料サイクル事業の現状について」
3. 意見交換

【議事概要】

◆社長挨拶

本日は、ご多忙の中、今年度 2 回目の地域会議にご出席いただき、また、日頃から当社事業に対し、ご理解とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、第 7 次エネルギー基本計画の策定が進んでいる。2024 年末に示された案では、「原子力を可能な限り減らしていく」という表現が削除され、「原子力発電をともに最大限活用していく」と明記された。

また、私どもの「六ヶ所再処理工場と MOX 燃料工場のしゅん工は、必ず成し遂げるべき重要課題」に位置づけられ、官民一体で責任を持って取り組む、戦略的にウラン濃縮、燃料加工等に関する技術を維持するという方針が明記された。

当社が取り組んでいる仕事の資質は、この国の方針、国の重要課題そのものであり、日本が将来にわたって豊かな暮らしを維持するために必要なエネルギーの確保に向けて、誇りと責任をもって全力で取り組んでまいり所存。

当社事業については、2024 年 8 月に、再処理工場は新たなしゅん工目標を「2026 年度中」、MOX 燃料工場は「2027 年度中」と定め、地域の皆さま、社会とお約束をさせていただきました。

濃縮事業は、濃縮ウランの生産運転を続けている 75 トンの設備を安全最優先で運転し、増設分の 75 トンも 2025 年中に開始して 150 トン体制にしていく。

埋設事業は、引き続き、安全かつ安定的な操業を継続するとともに、3号埋設施設の操業開始、モックアップ試験を通して1号の埋設施設の覆土の施工方法をきちんと決める。

今年は、各事業とも「現場を動かす年」となる。「現場の安全」を最優先に浸透させ、労働災害根絶のため、「不安全な行動」と「不安全な環境」を取り除き、現場の安全を確保していく。

本日の会議では、委員の皆さまに再処理工場およびMOX燃料工場の新たな目標に向けた取組み、地元企業の積極的な活用、労働災害根絶に向けた取組み、地域の皆さまへの理解活動について説明させていただく。

委員の皆さまの忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

◆意見交換会概要

【テーマ】

- ・再処理工場・MOX燃料工場の新たなしゅん工目標に向けた取組みについて
- ・施設のメンテナンス分野における地元企業の積極的な活用について
- ・労働災害根絶に向けた取組みについて
- ・地域の皆さまへの理解活動について



意見交換の様子

- 【委員】 施設のメンテナンス分野における地元企業の積極的な活用は、八戸市の地域でも関心が高い案件だと思うが、保全業務の見学会がどのように案内、周知されているかお聞かせ願いたい。
また、エリア、業種、業務内容などのリストアップはどのようにしているのか。
- 【当社】 なるべく多くの方が参加できるような日程を事前に調整して案内している。
再処理事業の保全業務に参画いただける方を幅広く声がけしている他、周辺地域の商工会などから紹介いただいた企業にも声がけしている。
- 【委員】 案内は、基本的に六ヶ所村内企業だけか。
- 【当社】 普段、商工会などにお邪魔しており、そこで、情報提供をしている。また、メンテナンス会社やもの作りをしている会社を当社である程度ピックアップし、声がけもする。八戸市には色々なニーズを持った会社がある。
2024年度は、商工会や六ヶ所村内の企業を通じて紹介いただき、八戸市内の企業を含む4社が新規参入可能であることを確認した。
また、むつ市からも当社の保全業務へ入りたいという話があるため、青森県内の企業に広く声がけしている。
- 【委員】 先日視察した島根原子力館では、お子さまが自由に出入りしていて印象が良かった。六ヶ所原燃PRセンターはイベントがある時しか親子連れは行かないが、島根原子力館は親子連れがごく普通に生活の一部としてエネルギーや原子力になじんでおり、親しみやすいと感心した。
日本原燃が実施している全戸訪問は、空き家が多いことと、寒い時期に社員の方が歩いているのを見て本当に大変だと思った。
また、日本原燃のカレンダーが見つらいという声もあった。地元の方の声だ。せっかくのカレンダーなので、デザインを考えてみてほしい。他に、タオルがあった、なかったという声もある。
全戸訪問に関係して思うことは、日本原燃の誘致にあたり、六ヶ所村民が推進と反対と騒いでいた当時、電力の方が地元住民を説得するために漁業関係のお宅を3、4回と訪問し、やっと家に

招き入れていただいた時は非常にうれしかったと聞いたことがある。それが信頼ということだと思う。

理解活動は少しでもズレがあると信頼が崩れる。日本原燃は事故なども報告してくれる。小さいことなどは教えなくても良いのではないかとの声もあるが、隠し事をしないことによって信頼されると私は思う。全戸訪問などの理解活動は大変だと思うが、引き続きお願いします。

次に、日本原燃のふれあいコンサートについて、六ヶ所村にスワニーという 600～700 人規模のホールがある。たまにはふれあいコンサートをスワニーで開催してはいかがだろうか。地元の六ヶ所高校などと演奏会のコラボをすれば人も来てくれると思う。

【当 社】 六ヶ所原燃PRセンターについては、2階のスペースがお子さま向けになっているが、視察の案内では使用していない。リニューアルも視野にご意見を賜りながら、お子さまやご家族での交流の場として使えるように考えてまいりたい。PRセンターで企画する恐竜イベントや動物とのふれあいイベントには県内から多くの方がいらっしゃる。イベントもメジャーになってきたと思うので、六ヶ所村に行くとPRセンターがあるぞと地域の皆さまが分かっていると思う。外にも公園があるので、それもしっかりとアピールしていく。

全戸訪問の空き家が多いという件だが、実際に空き家は増えている。その反面、尾駈地区は集合住宅が若干増えており、その方々になかなか会えず苦労した。なんとかその方々に会えるようにして、今回の全戸訪問は全体の半数の方にお会いできた。今後も多くの方々に会えるように訪問方法を考えていきたい。

当社のカレンダーが見にくいというご意見は、やわらかい、やさしい色合いにしたデザインのことだと思う。これもまた、委員の皆さまへの訪問の際ご意見があればいただきたい。

【当 社】 カレンダーは、シリーズものとして、水の生き物、陸の生き物、植物とテーマが一周したと思う。来年度に向けてデザインを考えたい。

【当 社】 ふれあいコンサートは、例年青森市で開催している。八戸市なども検討したが、会場の予約が先まで埋まっていることと、会場規模

の関係から青森市で開催している。

ふれあいコンサートとは別に、八戸市や六ヶ所村でできるのかを考えていかなければならない。青森市での開催も1年前から予約が必要であり、八戸市はもっと厳しい。その辺も含めて検討が必要。六ヶ所村のスワニーは600人規模のため、ふれあいコンサートとは違う形でできることがあるのではないかと思う。地元の高校生や中学生の演奏などは家族や知り合いが見に来ると思う。

【当 社】 ふれあいコンサートは高校生に参加いただくことが重要。コンサートの前に出演者が高校生に指導してくれるため、生徒さんが急激に伸びると言われる。一流の方の指導は違う。地元の高校生へも機会を与えたいと思う。六ヶ所高校や八戸市内の高校から当社へ就職する方が少なく、そういった意味でも八戸市も含めて日本原燃の知名度を上げなければならないため、しっかり考えていきたい。

【委 員】 私の役目は、日本原燃のことを弘前市の方に知っていただくことだと思っている。婦人部などの講演の場で、エネルギーの話などに関心を持ってもらうように、お話をさせていただいている。今後も、エネルギーに関心を持っていただけるようPRをしていきたい。

【当 社】 私は津軽地域の自治体、農協などを回らせていただいている。農協婦人会さんなどに当社が講師となってエネルギーの勉強会を実施している。また、バスをこちらで手配して視察にご案内させていただいている。

勉強会や視察は、少人数や公式な組織でなくとも対応させていただく。一度見ていただいて、詳しく当社の事業やエネルギーの重要性を学んでいただければ関心も高めていただけると思う。是非、ご利用願いたい。

【委 員】 島根原子力発電所の視察は、2号機の起動日前という時で、印象深いものだった。視察した3号機の原子炉内の部品について、そのほとんどが「国産」であるとの説明を受け、大いに安堵したところである。日本の技術力を高め、守るためにも国産の部品を作りつづけることが大事とお話いただいて、「ものづくり日本」の底力を見たような気がした。エネルギー基本計画の中に、そのような方針が

盛り込まれることが肝心ではなからうか。

労働災害については、当初の頃からみると、発生件数は大分少なくなってきたと思う。先程、重傷労働災害4件のうち、3件について説明いただいたが、残る1件はもっと重大なものだったのか。

【当 社】 そうではない。昼休み時間に雪道の通路で転倒した災害である。本日は、作業に伴う重傷労働災害3件をご説明した。

【委 員】 協力企業の方々も安全対策には十分配慮し、手を尽くされていることと思う。私の関わった中小企業の例からであるが、労働災害を発生させた場合、その後に待ち受けているのは、企業の存続に関わる責任追及という現実だ。国からの労災補償はあるものの、企業に対して損害賠償を求める、従業員やその家族からの労災民事訴訟が起こされることが多くなっているのだ。このことについて、協力会社が詳しく知る機会があってもよいのではと、老婆心ながら思っている。

現場パトロールを懸命にされていると伺ったが、効果的なことと思う。特に日本原燃は大勢の役員がおられる。僭越ではあるが、現場をくまなく目配りし、声がけするのは、原始的ではあるが基本中の基本と考える。

テレビCMで大企業のPRに協力企業が出ている。とても良いと思った。出してもらう企業にとっても良い。日本原燃もこのように協力企業と一緒にCMに出て、「安全第一だ」ということを言えば良いと思う。

ところで、夏の熱中症対策で、冷たいものを提供しているとのことだが、屋外はどうなっているのか。

【当 社】 建物の中は飲食ができないところもある。屋外は作業する近くの小屋の中に塩分や水分、氷菓子を置くなどしている。

【委 員】 労働災害の根絶に向けた取組みを説明いただいたが、取組みを強化していることは評価できる。根絶に向けた努力をしているのは重要なことだ。引き続き努力していただきたい。

地域への理解活動だが、青森中央学院大学でも私の授業のうち3コマを日本原燃(株)、六ヶ所げんねん企画(株)の出前講座で担当していただいている。原子燃料サイクルそのものに踏み込んだ内容

は多くないが、放射線関連について生徒に理解をしてもらうために実施している。地域活動は重要なことだと思う。

再処理工場、MOX燃料工場のしゅん工目標に向けた取組みは、いずれゴーサインあるいはMOX燃料の需要が出たときに備えて、準備をつつがなく進めている日本原燃の事業のあり方は、『あるべき姿』だと思う。しっかりと事業を進める準備をしていただくことが、現状、重要なことだと理解している。

もう一つは、濃縮事業はさらに進められるということで、社会を支える大きな肝だと思う。これもつつがなく実施していただくことが大きな社会貢献だと思う。再処理工場、MOX燃料工場に関して、社長が謙虚な姿勢で記者会見していることも現状のあるべき姿だと思う。自信を持って事業を進めていただきたい。

【委員】 地域貢献の一つとして、将来的に六ヶ所村の各漁協と連携して養殖事業をお考えいただきたい。

【委員】 新潟県では工業系の大学が、柏崎近郊に多く見受けられる。原子力発電所と連動し大学を誘致し、原子力安全に係るコースの設置や人材育成など長い取り組みがみられる。どのような成果をあげられているのか、関心のあるところだ。六ヶ所村に工業系の大学を誘致というのは、もう無理なことかもしれないが、せめて「塾」のような形でも、今、求められている多種多様な人材の育成をすすめていくことが大切なことではないか。

【委員】 六ヶ所村にあるショッピングモールREEVの「ふれあいプラザ」で、げんねん地域大使をPRしていることは良いことだと思う。この場所は待ち合わせなどで利用したり、食堂が混んでいればここで食べたりする方もいるため、目にするチャンスが多い。大使25名全員を紹介しているのか。

【当社】 順次追加しながら最終的には25名の大使全員を紹介していく。

【委員】 「ふれあいプラザ」の利用者は、お子さまやバスで来る高齢者の方。げんねん地域大使のような、地元出身の方が紹介されることは、大きな安心につながる。

- 【委員】 『日本原燃べからず集』は良いと思う。2024年度版ということは昨年も出しているのか。
- 【当社】 4年程前から作成している。配られるようになるまで多少時間がかかった。これで大丈夫ですというわけでない。必要に応じて内容を見直していく。
- 【委員】 社員全員が持っているのか。
- 【当社】 社員全員持っている。私もポケットに入れている。これをやってくださいと言うより、これはやってはダメということを徹底するよう、わかりやすい内容にし、『べからず集』として配付している。
- 【委員】 若い社員には良いと思う。
- 【当社】 実際に作業する人にもこれだけはやってはダメというのが必要だと思う。
- 【委員】 外部の人間にも役に立つ項目がある。
- 【委員】 「手摺！持たずに階段を昇降するべからず」というのは良い教訓にする。
- 【当社】 養殖事業の件について、六ヶ所村内の漁業協同組合は3つあるが、日常の会話の中で養殖の話は出てこない。六ヶ所村周辺の漁協とお話していると、野辺地町の川の方で、鮭の養殖をやっていると聞いたことがあり、一度見に行きたいと思っている。今後、地元の漁協と話をしてみたいと思う。
- 【当社】 養殖も自然が変わってきているため、そのままでは養殖できないと聞いた。川や海で養殖できず、水を持ってきて陸地でやる。一概に養殖といってもやり方が変わってきていると村の人と話していた。これからどのように六ヶ所村で漁業をやっていくのか、我々のご協力できるものはやっていきたいと思う。
- 我々の会社は地元の皆さまの支えがあって成り立っている。委員の皆さまからお話があった人材育成は必要で、まずは、地元の

六ヶ所高校から当社に多くの生徒が入っていただければ、高校も元気が出ると思うし、我々もありがたい。

【委員】 先日、元日本原燃社長の川井さんが泊中学校3年生を中心に講演会をした。六ヶ所村は世界に一つしかない素晴らしいところだと話されていた。漁業、農業、サイクル施設があって、誇りに思って頑張ってもらいたいとのメッセージを送っていた。

その後、アンケートで「六ヶ所村に生まれて良かった」「六ヶ所村で頑張る」などの記載があったが、日本原燃に入社する人はあまりいないのか。

【当社】 企業による保全の勉強会も、入社も、当社で働くことがすごくハードルが高いと思われている。普通にやっている作業をそのままやっただけであれば良いし、入社後もきちんと指導する。雇用は地元のための社会貢献でもあると思っている。

【委員】 以前「原燃ができたてばな」というCMがあって、日本原燃を身近に感じた。「あそこのお婆さんがCMに出ている」と。そのCMを見て日本原燃を希望する者があったと聞いた。CMにすました人が出ると敷居が高いと思われるのではないか。

【当社】 げんねん地域大使が出演すれば良いのでしょうか。例えば津軽弁版を作るなど、地元にもう少し我々をアピールできるよう考えていきたい。

【当社】 委員の皆さまには、ご経験に基づく貴重なご意見、あるいは、我々も気づかない新たな視点に基づくご助言をいただき感謝申し上げます。

本年は原子燃料サイクルに関して、青森県ならびに六ヶ所村との間で、立地の基本協定を締結させていただいてから、40年目の節目の年になる。この40年間、我々が六ヶ所村の地で事業を遂行できたのも、ひとえに当社施設を受け入れていただいた青森県ならびに六ヶ所村の皆さまの長年に亘るご理解、ご支援の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

今後も当社事業は地域の皆さまの支えがあって成り立つということをお忘れなく、安全を最優先に当社、グループ会社、協力

会社、一体となって事業を進めてまいる所存。引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以 上